

皮膚病変とその対策  
車椅子シーティングによる褥瘡予防

木之瀬 隆

## 特 集

Vol. 33 No. 1 2017

## 皮膚病変とその対策

## 車椅子シーティングによる褥瘡予防

木之瀬 隆<sup>1)</sup>

キーワード 車椅子シーティング、褥瘡予防

## 抄録

褥瘡対策に関する診療計画書が厚生労働省より2002年3月に出されたことで、車椅子シーティングの褥瘡予防の大きな展開につながった。日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン（第4版）には、リハビリテーションの項目のクリニカル・クエスチョンに座位姿勢を考慮することは有効か？などの項目が挙げられている。また、日本シーティング・コンサルタント協会ではHofferの座位能力分類（JSSC版）として座位評価法を紹介している。今回、車椅子シーティングの評価法から褥瘡予防対応の基本を解説する。

## 1. はじめに

我が国は世界的にも医療技術は最先端の国になっているが、高齢者を中心とした「寝たきり」大国となっているのも現実である。ノルウェーなどのスカンジナビアン諸国では在宅での「寝たきり」はほとんどみられない。社会システムの違いはあるが、在宅支援の中でシーティング技術を中心とした福祉用具支援が積極的に行われており、医療費の削減を含めた対応がなされている。次に、シーティング領域では座位姿勢計測法として国際規格ISO 16840-1<sup>1)</sup>が使われ、座位姿勢の計測と座位保持装置の適合性が評価されるようになってきた。北米では国際シーティング・シンポジウム（ISS: International Seating Symposium）が毎年開催され、シーティングの評価法、実践、製品評価などが発表されている。

また、国内では日本シーティング・コンサルタント協会のHofferの座位能力分類（JSSC版）が評価法として使われ始めており、積極的に医療機関から在宅へのシーティング対応が進められつつある。業界団体では日本車椅子シーティング協会が、シーティングに関する用具の普及啓発活動も行っている。また、日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン（第4版）には、リハビリテーションの対応として14項目が挙げられている。ここでは、褥瘡予防の観点よりシーティング評価から対応までを解説する。

## 2. 座位の基本姿位と座位能力評価法

車椅子・座位保持装置使用者の姿勢の表現方法を定めた

ISO 16840-1があり、身体寸法・座位姿勢の規定、支持面の空間位置・寸法を記述するための用語が定義されている。その中には、座位の基本姿位として矢状面、前額面、水平面の規定がある（図1）<sup>2)</sup>。座位の基本姿位は身体寸法計測点であり、評価はこの基本座位姿位からどの程度変位しているかを計測する。また、基本座位姿位で特に重要なことは、骨盤の位置、脊柱カーブなどのアライメント評価である。次に、座位姿勢計測器として国内で開発された傾斜角度計測器（ホライゾン）<sup>3,4)</sup>、座位姿勢計測用ソフトウェアysis<sup>5)</sup>などは欧米でも使われ始めている。座位能力評価では、Hofferの座位能力分類（JSSC版）<sup>6,7)</sup>が、プラットフォーム上での評価として使われている。

Hofferの座位能力分類（JSSC版）は日本シーティング・コンサルタント協会による改定版であり、理学療法士（PT）・作業療法士（OT）などのセラピストがアクティブな座位能力評価として使用している（図2）。評価方法は車椅子上でなく、プラットフォーム上での評価である。足底が床に着く高さで、しっかりとした座面上に座った状態を評価する。脊髄損傷などの特定の障害などは現時点では対象外である。評価基準は、座位能力1：手の支持なしで座位可能（端座位にて手の支持なしで30秒以上座位保持が可能な状態）、座位能力2：手の支持で座位可能（身体を支えるために、両手または片手で座面を支持して、30秒以上座位保持可能な状態）、座位能力3：座位不能（両手または片手で座面を支持しても、座位姿勢を保持できず、倒れていく状態）の3段階である。評価のポイントは、対象者の状況

Pressure ulcer prevention by wheelchair seating

1) (株)シーティング研究所 〒114-0003 東京都北区豊島8-27-18-2012

Seating Laboratory Corporation

8-27-18-2012 Toshima, Kita-ku, Tokyo, 114-0003 Japan

Takashi KINOSE（作業療法士）